

全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

平成19年4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取組についてご説明します。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂することなく、児童一人ひとりの力をつけることに、引き続き取り組んでまいります。

地域・保護者のみなさまには、本調査の趣旨を十分に理解した受け止め方をしていただけようお願いいたします。

[調査結果の概要]

今回の教科学習状況調査で、本校の児童は、国語・算数ともに学習したことをよく理解し、「知識」「活用」の両面で、全国や、県と比べて高い学力を身につけているという結果が出ました。

しかし、「いくつかを関連づけて読みとる」、「必要な情報を読みとって、問題解決に生かす」力が少し弱いという傾向があることが分かりました。

以下は教科別に傾向を示したものです。領域別の傾向においては、○は大変よい状況と考えられる内容を、●は指導・改善が必要と考えられる内容を記してあります。

<国語結果>

A問題 主として「知識」は、全体としてよく理解しています。全国や神奈川県とくらべても、とてもよい結果を示しています。

- * 「言語事項」「書くこと」については大変高い正答率でした。
- * 「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、「言語事項」「書くこと」に比べるとやや低い正答率でした。特に「話すこと・聞くこと」の正答率は低くなっていました。

B問題 『「知識・技能」を活用する力』は、おおむね満足できる結果でした。全国や神奈川県とくらべても、よい結果を示しています。

- * 「話すこと・聞くこと」については、A問題より高い正答率でした。
- * 「読むこと」についての正答率は低くなっていました。

話すこと・聞くこと

○司会の役割や働きを押さえて、話し合いを計画的に進める。(B問題)

書くこと

- 一文で書かれた内容を理解し、一文を二文の構成に書き換える。(A問題)

読むこと

- 文章の内容と資料の情報とを関連づけ正しく読み取ること。(B問題)

言語事項

- 当該学年までに配当されている漢字を正しく読み、当該学年の前の学年までの漢字を正しく書く。(A問題)
- 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を正しく使う。(A問題)
- 指示語の種類や役割を押さえた上で、文脈の中における働きを理解している。(A問題)
- 調べたい事柄について、辞書を効率よく利用する。(A問題)

<算数結果>

A問題 主として「知識」は、全体としてはよく理解しています。全国や神奈川県とくらべても、とてもよい結果を示しています。

- *「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のどの領域も高い正答率でしたが、「小数の乗法の意味」を問う問題については、正答率が低くなっていました。

B問題 『「知識・技能」を活用する力』は、全体としておおむね満足できる結果でした。全国や神奈川県とくらべても、よい結果を示しています。

- *「知識」に比べると、どの領域についても、低い正答率になっていました。

数と計算

- 整数、小数、分数の四則計算をすること。(A問題)
- 計算の工夫を読みとり、それを用いて異なる数値の問題の解決方法を説明すること (B問題)

量と測定

- 基本的な平面図形やL字型の図形の面積を求めること (A問題 B問題)
- 地図から必要な情報をよみとり、基本的な図形を見いだして、その面積を求めること (B問題)

図形

- 基本的な平面図形の性質を理解すること (A問題)

数量関係

- 必要な情報をよみとり、百分率を用いて問題を解決すること (B問題)

[全国学力・学習状況調査実施の概要]

1 調査の目的

- ・全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。
- ・各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図ること。

2 調査日時

平成19年4月24日（火）

3 調査内容

(1) 児童に対する調査

ア 教科に対する調査

国語A・算数A 主として「知識」に関する問題

国語B・算数B 主として「活用」に関する問題

イ 質問紙調査

学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面に関する調査

(2) 学校に対する調査（学校質問紙）

学校における指導内容、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況及び児童の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

4 調査対象

小学校6学年・中学校3学年

5 調査結果の公表や返却

(1) 公表の方向性

「実施に当たっては、子どもたちの学習意欲の向上に向けた動機付けを与える観点も考慮しながら、学校間の序列化や過度な競争等につながらないよう十分な配慮が必要である」

- ・国、都道府県単位（47）
- ・地域の規模別（大都市、中核市、その他の市、町村など）

(2) 返却

都道府県、市区町村、学校に調査結果を返却

[今後の取組]

○本校の児童は、国語・算数ともに学習したことをよく理解し、国語・算数ともに「知識」「活用」の両面で、全国や、県と比べて高い学力を身につけているという結果が出たものの、「いくつかを関連づけて読みとる」、「必要な情報を読みとって、問題解決に生かす」力が少し弱いという傾向があることが分かりました。そこで、今後は、基礎・基本を大切にしつつ、学習の生活化を図る学習展開の工夫をすることによって、児童が身につけた「知識・技能」を「生かす」ことができるような教育活動をしていきたいと考えます。

また、国語・算数ともに無回答率が大変低かったということや、児童質問紙調査「学校で好きな授業・楽しみにしている活動がありますか」「読書は好きですか」の項目に「あてはまる」と回答した割合が高いことが、学校での高い学習意欲につながっていると考えます。

さらに、児童質問紙調査「朝食を毎日食べていますか」の項目に「あてはまる」と回答した割合が高く、安定した家庭生活が、比較的落ち着いた学習態度と深く関連していると思われます。そこで、今後も学校と保護者とが連携していくことが大切であると考えます。

